にしわ
歴史のさんぽ道案内図

❶廃法蔵寺地蔵堂

別府柳原にある地蔵菩薩立像と髄神像（ずいしんぞう）。
生塩さま（屋号法蔵寺）の話によると福島正則による廃寺後、今日までお堂を護持されています。
法蔵寺は神宮寺で神社とお寺が同じ場所内にあったと思われます。
地蔵菩薩は、右手に錫杖、左手に如意宝珠を持っています。
この菩薩のご利益は、邪気を払い病気を治し、災いを防ぎ、あらゆる願いをかなえてくれる地蔵菩薩です。
髄神像立蔵は、畑から掘り出されました。冠衣束帯姿で役目は、社殿の神様を守る役として安置されていました。
朝廷では、同様の役目として天皇や貴族を守る護衛の役として髄宦という役職がありました。
このことから法蔵寺は朝廷等に深いつながりがあったと思われる。

❷西明寺

別府字西明にあり。宗派は浄土真宗大谷派。本尊は阿弥陀如来。
もとは、八木山寿正院と称し、真言宗で、七堂が坪中腹にあった観音堂を明治八年に現在の地に移転した。
芸藩通志によると、福島正則の廃寺録に記録はなく、通志地図には西明寺跡とあり本堂の姿はなく観音堂だけが残っていた。
当山の本堂内陣に秘仏十一面観音像が安置されている。
この観音には、宝永元年四月（1704）中旬，京麩屋通り仏光寺下がる町、本家大仏師高橋兵部清正の銘があり、三十三年に一度の御開帳が盛大に行われていた。
この観音の製作年代は、徳川幕府、徳川綱吉の時代。なお当山には、一寸八分の観音像にまつわる伝説がある。

❸廃圓漫寺薬師堂

別府恵下にあり、別府は、地名が志芳庄に別府庄がこの地にあった。
城平山知蔵院圓漫寺、再建建立薬師如来、嘉永３年３月（1850）と棟木板にある。
1444 年中原安富卿記によると世尊寺行豊卿の求めで、安芸の国、圓漫寺修造の勧進帳を認めるとある。
このことから推測すると、朝廷との関係の深さを感じさせる。
豊臣政権が倒れ、慶長５年（1600）時代は江戸時代（徳川幕府）となり、福島正則は安芸国、備後 49 万石広島城城主となった。
さっそく取り掛かったのが山城破却令（生城山城、赤城山城）等の取り壊し，廃寺令（寺の取り壊しであった。）圓漫寺本堂等もこの掟を逃れることはできず、あえなく寺は取り壊しとなりました。
割庄屋格（圓漫寺）三藤氏は村人の嘆き悲しむ姿を目の当たりにし、幕府の目の届かない時代まで薬師如来を守ったのです。

❹貞岡八幡神社

位置は、別府宮原にあり、由緒は八幡宮と称し、寛政元年（1789）年ごろ再建されたという。この時代は、幕府が財政難で棄捐令をだし、債権放棄をさせた時代で、再建も大変であったろう。
祭神には、ほかの神社にはない水波女命（船の安全や水の安全を司る神）が祭られており、この地が水郷であったことを物語っている。その後明治政府の一村一社令により、宮路地区は、貞岡八幡神社の氏子となる。

❻二宮神社

位置は、奥屋湯免、神社門前を宮地という。由緒は大同２年（807）坂の上田村麻呂が平常城天皇の勅を奉じ、創建した京都上賀茂系古社だと伝わっています。
伝説の域を出ないが、古事記、日本書紀によれば、神社神道の始まりは、天照大御神から始まり、神武天皇の東征後、数代の天皇は、天照大御神の神鏡を皇居の中に祭っていました。したがって皇居が神宮だったのです。
神社の形態は、ここでは神様が降臨する場所、巨木の楠、巨岩の金剛岩の周辺に二宮神社、糠塚の周辺に岸明神（三宮）の社殿が造られたと思われます。
奈良時代から神仏混淆が始まり、平安時代、当社建立のころ、空海（弘法大師）が中国から帰国し、京都東寺は神社であったが、朝廷は真言宗総本山とした。このころ二宮神社も神宮寺として、社殿西裏に西壇坊、北裏に北壇坊、阿弥陀寺、西福寺、大行寺、を配し、往古 12 坊の社寺を持ち栄華を誇った。現在もこれら寺院に安置してあった仏像が数体保管してある。
当時は、朝廷とのつながりも深く、神職他、宮僧、棚守（神社を総合的に守る職）巫女、神楽師等の職が置かれ、勅使の参向もあり、流鏑馬が行われ、近郷近在からの多くの参拝者でにぎわった。
当社が栄華を誇った様子を詠んだ歌に「**安芸の国、出会いの清水**（冠上条）、**鷺の森**、（二宮神社裏山）**阿弥陀が峰に**（奥屋側）、**厳島山**（二宮神社の裏山の峰）」とある。

❺黒河三郎左衛門碑

黒河三郎左衛門吉則は享保八年（1724）志和東村長松（屋号河屋家）に生まれ、幼名を彦六と云い。干ばつ飢餓に苦しむ村民のため、ため池築造や用水路築造等、幾多の功労を立て、広島藩庁などから表彰を受けた。
寛延元年二月（1625）～寛政五年まで 36 年間在職。
宝暦八年八月（1759）志和庄一円統括割庄屋を仰せつかる。
三郎左衛門は、明和二年（1766）別府、新庄山の裏側に小野が原池を築造にあったって、水路法線用地測量を生城山中腹から行い、おおよその水平水路線を決め、中腹の水路線雑木を伐採させ、宮地まで杭を打ち、杭に提灯を取り付け、生城山中腹から眺め、水路法線を決めた。水路は、王子が谷を迂回し、貞岡八幡神社裏約１００ｍ上を、天幅約９０ｃｍ、底幅約５０ｃｍ、深さ９０ｃｍ、延々３キロ余、宮地（二宮神社下）の西端まで続き、別府村の干ばつ飢饉を救った。文化三年（1806）８６歳没三郎左衛門碑は、２００年前の姿のまま流れ続ける小野溝を眺め、今も静かに眠っている。池底の、あの池、この池、その池は、三郎左衛門築造である。

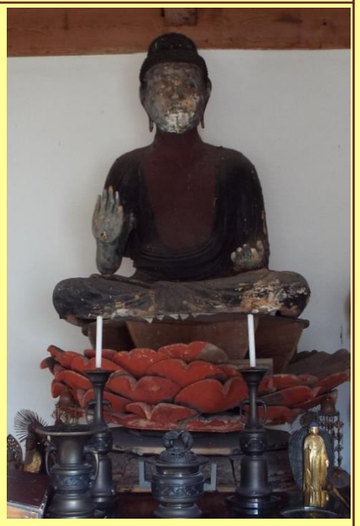
❾廃阿弥陀寺阿弥陀堂

奥屋側（二条）の位置にあり、西志和三景の一つ、阿弥陀が峰ふもと、二宮神社付き阿弥陀寺、阿弥陀寺付き観音堂として建立される。
阿弥陀寺、二宮神社、岸明神の門前に三斎市の下市、先市、中市が開かれ、近郷近在からの参拝者や、人の行き交いも多くにぎわったという。

阿弥陀寺阿弥陀堂

市の上観音堂

⓫廃報恩寺釈迦堂



奈良時代から朝廷が条理地割を行い、聖武天皇の「墾田永年私財法」により稲作適地とした荘園つくりのため、一条から八条までの重要地点として、最初に手掛けた地点が一条（上条）で、周辺に数多くの寺社を建てる。
交通アクセスも、海路は、海田（開田）港、世能庄荒山荘から榎山峠を越えて上条へ。西から、府中町の埃宮（古代安芸国の国府）から三篠川を上って、湯坂峠、田の口から上条古市へ多くの人が行き来し、にぎわい繁栄を極めたと云う。
この釈迦如来像は、台座からの仏像の高さは、１ｍ10ｃｍ余の精巧な仏像を、京都から上条まで運ぶには大変であったと思われる。京都から淀川を下り、海路瀬戸内海から海田港、荒山荘駅を経由して、報恩寺釈迦堂へ安置されたと思われる。

西志和まちづくり自治協議会
地域づくり部会（ふるさとの里山を守る会）